

自 2023年4月 1日  
至 2024年3月31日

## 2023年度 事業報告書



公益財団法人ハーモニセンター

## 目次

2023年度の概況 .....	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営 .....	2
1.1. キャンプ	
1.2. 日帰り企画	
1.3. 蓼科ポニー牧場	
1.4. 小貝川ポニー牧場	
1.5. 相馬ポニー牧場	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理.....	8
2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)	
2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)	
2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)	
2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の4年目)	
2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及.....	12
3.1. 「馬という領域」ミーティング	
3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業	
3.3. クラウドファンディングによる地域の方々への移動動物教室の提供	
3.4. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供	
4. 川べり環境の整備及び活用の推進.....	13
4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム	
4.2. 河川騎馬パトロール	
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進.....	14
5.1. モンゴル大草原乗馬交流	
5.2. 日独青少年相互交流計画	
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信.....	14
6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行	
6.2. WEB広報	
7. その他 .....	15
7.1. 中期計画の策定	
7.2. 規程変更と新設	
7.3. 馬の管理	
7.4. カウンセラー・職員等の研修	
7.5. 会議等	
7.6. 法人事務	
7.7. 賛助会員	

## 2023年度の概況

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が 2023年5月に第5類となり、事業運営にさまざまな影響を与えてきた制限がほぼなくなりました。これにより、自主事業・受託事業ともにコロナ禍前の状況に戻るにとどまらず、新たな動きがいくつも生まれた1年となりました。

ポニーキャンプ®は、標準的な参加者定員を50名から60名に変更し、さらに多くの子どもたちが参加できるようになりました。カウンセラーの活動機会もほぼ対面に戻り、コロナ禍によって弱まるのが心配されたスキルやノウハウの継承も、カウンセラー間で積極的に行われる状況が戻りつつあります。

日本在来種である対州馬のいる対馬(長崎県)でのキャンプを新たに実施、モンゴル騎馬トレッキングツアーが風の旅行社と共同で4年ぶり復活するという動きもありました。また、テレビ朝日福祉文化事業団の助成を受けて、里親子のファミリーキャンプを行いました。社会的養護を必要とする子供達の家庭的養護環境の充実が喫緊の社会課題であり、私たちの事業を通じて貢献できることには大きな意味があります。

また、蓼科ポニー牧場には新宿舍が完成しました。1階には車いすでも利用しやすいバリアフリー対応居室を備え、今後、より幅広い利用者の受け入れが可能となります。

ふれあい動物広場等の受託施設も、新型コロナウイルス感染症の影響がさらに減少し、休止していたイベントを再開するなど、コロナ禍前の状況にまでほぼ回復したとすることができます。

碑文谷公園こども動物広場と相模原麻溝公園ふれあい動物広場の2か所は、5年間の指定管理期間の最終年となり、秋に次期指定管理者の選定が行われました。いずれも2024年度からの5年間の指定管理が決まりましたが、選定のプロセスを通じて、ハーモニーセンターらしい活動を広く行い、そのよきをもっと詳しく、分かりやすく、楽しく、積極的に伝えることの重要性を改めて実感しました。

団体全体の動きとしては、2024年度から2028年度の5年間の中期計画「Riding for All をさらに拡げる」を策定しました。

コロナ禍は、ハーモニーセンターの活動に大きなマイナスのインパクトを与えるとともに、社会における孤立の問題を浮かび上がらせ、体験活動の重要性やあり方を問い直す機会となりました。コロナ禍の影響から回復が実感できた状況で、ハーモニーセンターの事業の価値を改めて評価するとともに、将来にわたって価値を保ち続けるために、この5年間に必要とされる行動の大枠をまとめました。2024年度以降、ここに示された内容を基本に各年度の事業計画を定め、具体的なアクションにつなげます。

## 1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

### 1.1. キャンプ

この年度は、新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴って感染症対策のルールを緩和、秋に蓼科ポニー牧場の新宿舎が完成したことにより、冬休みキャンプから定員をこれまでの50名から60名に増やした。コロナ禍前の状況に戻しながらも、大きな事故などなく1年間のキャンプを終えることができた。

主催キャンプは、ポニー20回、ハケ岳1回、スキー3回、スケート1回、野外3回、ファミリー7回の合計35回を実施。スケートキャンプが例年の2回から1回の開催となったが、対馬と鳴子の新たなキャンプを2回実施したため、前年度より1回増となった。他にも、東北でのいちごっこキャンプをこの年度も開催した。また、テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、里親家庭を対象としたファミリーキャンプも実施、大人・子供合わせて21名が参加した。

受託キャンプは、新たにスキーキャンプと昨年実施した慶応小学校の子供たちが参加するポニーキャンプの合計2回を実施。キャンプの合計は39回、参加者1,308名となり、前年度と比較して138名増加した。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2018年度と比べても参加者は増えており、コロナ禍以前の状態に戻ったと言える。今後も、既存キャンプの充実を図るとともに、新規キャンプの開発を進めたい。



## 1.2. 日帰り企画

この年度も、宿泊キャンプ中心に自主事業を進めたため、全体として日帰り企画の実施は多くない。しかし、年間を通して実施する小貝川ワンデイキャンプは、前年度から4回増え10回行った。また、受託事業担当スタッフが企画した高尾山登山を行うという新しい動きもあった。

昨年カウンセラー達が主体となり行った「ハモタウン」は、実施場所を変え、名称も「ハモニイランド」と新たにして開催。OBOGカウンセラーの家族など含む約50名の親子が参加した。



## 1.3. 蓼科ポニー牧場

4月から牧場会員制度開始、11月に新宿舎完成、1月からキャッシュレス決済開始と、時代の流れを見ながら、新たな牧場運営に踏み出していく1年となった。

前年度に引き続き、週末の宿泊事業や乗馬レッスンだけでなく、不登校児支援プログラム「ひだまりファーム」、牧場を拠点とした野外保育「牧場ようちえん ぽっこ」などもあり、牧場には平日にも子供の声が響き、笑顔が見られた。このことは、子供達にとっての、ポニーと生きる、ポニーをパートナーとして「生きる力」を育む日常的な居場所としての位置付けを考える契機となった。

新宿舎の完成を受けて、ポニーキャンプやOBOG会などの宿泊利用に関しては、受入定員を増やした。コロナ禍の只中にも心がけてきた、おらかな感性と覚悟を持った丁寧な運営が実を結び、宿泊利用者が増えつつある。

また、乗馬レッスン・引き馬も同様に利用者は増え続けている(レッスン1,806鞍、引き馬1,255鞍)。この数字は、コロナ禍以前の2018年度の実績(レッスン994鞍、引き馬809鞍)を大きく上回っており、牧場の存在が広く認知されてきていることを実感する。今後は、より内容・サービスの質が問われていくようになると考えられるので、ハーモニイセンターの活動理念を色濃く発信しながら、利用者の期待を裏切らない心地よい場所の提供ができる牧場を目指したい。



### A. 宿泊の牧場利用

感染症対策のルール変更、新宿舎の完成を受け、宿泊利用者が増えた1年だった。また、コロナ禍を脱し、他団体からの利用も増えた。

自主・受託事業ポニーキャンプ:21回(58泊) 自主事業ファミリーキャンプ:8回(9泊)

広場キャンプ:7回(14泊) OBOG会:6回(7泊) ライダーズカップ合宿:2回(5泊)  
他団体利用:4回(8泊)

## B. 研修

職員の馬取扱い・乗馬技能向上及び、全国乗馬倶楽部振興協会の乗馬指導者資格者を増員すべく、前年度に導入した法人内乗馬技能検定を、この年度も年2回実施した。難易度の高いグレードにも合格者が始まり、職員の馬取扱い・乗馬技能に対する意識が上向いてきたことがうかがわれる。

また、通年で各現場を巡回して研修を実施した。職員の技能向上が効果の高いリスクマネジメントのひとつとなることを期待し、法人内で馬取扱いの共通認識を醸成すべく、継続的に実施していきたい。これ以外にも、職員が自主的に蓼科へ来場し、乗馬技術を磨こうとしている様子も多く見られた。

職員・カウンセラー宿泊研修:5回(12泊) 巡回研修:8回

## C. 日帰り団体の牧場利用

立科白樺高原ユースホステルより「馬の学校」(障害児ファミリー)14名(2回)、フォースマイル(地域居場所づくり事業団体)より12名(2回)を受け入れた。

## D. 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)

小1～中3を対象に月2回実施した。参加者は地元中心であるが、東京からの参加者もいる。また、高校生OBがボランティアとして参加するほか、年間を通じて多くの活動に父兄が関わっている。

実施回数:22回 のべ参加者:518名

月謝制:¥6,000/月

行事:前・後期保護者会/ライダーズカップ/牧場フェスティバル/クリスマス会/成果発表会など

## E. 移動乗馬教室

7月に1泊2日で新潟日報メディアシップ移動乗馬、11月にJRAの助成を受け、茅野市内の保育園・小学校、相模原市の高校を訪問、3月には被災地支援として、1泊2日で石川県能登半島に行き移動乗馬教室を実施した。

7月2日～3日 新潟日報メディアシップ のべ6頭

11月7日～10日 JRA 蓼科 8か所訪問 のべ48頭

11月16日 JRA 相模原(津久井高校) 3頭

3月2日～3日 能登半島被災地支援移動乗馬教室 のべ6頭



## F. 牧場レッスン・引き馬

2023年4月より、新たに牧場会員制度を開始し、30名が会員登録した。

レッスン利用者は年々増えており、今後も継続して利用してもらえるよう、利用者のニーズ把握や、サービスの質の向上に努めた。

## G. その他

- ・ 第10回ポニーライダーズカップ  
10月14日・15日に「ポニーライダーズカップ」を開催し、EPO・ハーモニカレッジの子供達を含む、総勢88名が参加した。
- ・ ひだまりファーム  
不登校児の居場所事業「ひだまりファーム」を40回実施し、のべ283名が参加した。最初は集団行動が苦手だった子供達も、馬のお世話や遊びを通して、集団行動に慣れてきているように感じる。
- ・ 牧場ようちえん ぽっこ  
牧場施設を利用した「牧場ようちえん ぽっこ」の活動が年間を通じて行われた。
- ・ ポニーステイ  
昨年度に引き続き、長野県伊那市立伊那小学校にクリスターを無償貸与した。
- ・ 職員乗馬研修  
1月23日～29日に法人内職員7名を対象に実施。外部講師として特定非営利活動法人ハーモニカレッジ・中野事務局長を招聘した。
- ・ 牧場フェスティバル  
11月11日・12日に牧場開放事業「牧場フェスティバル」を開催した。引き馬をのべ700名が利用、餌やり体験には334名が参加し、馬とのふれあいを体験した。
- ・ 羊の毛刈りショー  
ここ数年続けて実施している毛刈りショーも、ひだまり・ぽっこの子供達の恒例イベントになり、地域の方達も招待してのイベントになった。参加者53名。



## 1.4. 小貝川ポニー牧場

### A. 日帰り団体の牧場利用

野外活動機会を求める声は引き続き多くあり、複数の団体の日帰り利用があった。

- ・ 田園調布ワンデイキャンプ  
田園調布在住の方を対象にワンデイキャンプを実施。午前中は乗馬練習や厩舎掃除、馬とのふれあい体験、午後は小貝川での川遊びやEポート操船などを実施した。また、ワンデイという名前ではあるが、うち1回は近隣の宿泊施設を借りて、宿泊を伴うプログラムも実施した。  
実施回数10回 のべ参加人数:170名

- ・ 東京都ひとり親家庭福祉協議会  
東京都在住のひとり親の家庭を対象に、不足しがちな体験活動を補うために、午前中は乗馬体験、午後は河川敷の散歩、焼き板作り・焼き芋作り体験などを行った。  
実施回数:2回 のべ参加人数:66名
- ・ 茨城県LD等発達障害親の会・星の子  
LD等の障害を持つ方とその保護者の団体で、15年以上継続して利用していただいている。乗馬体験のほか、川でカヤックの操船体験も行った。  
実施回数2回(1回は雨天のため中止) 参加人数:48名

## B. ポニー教室

小1～中3を対象に、土曜日クラスと日曜日クラスの2つの教室を開催した。定員は各クラス35名ずつとしているが、参加希望が多く、4月の時点でキャンセル待ちが生じた。すべての希望者に参加いただけたのは、10月になってからだった。

参加者は取手市内はもちろん、県内に留まらず都内や近県からも継続して通ってきていただいている。教室の卒業生がボランティアとして参加する他、保護者や教室に入る前の兄弟にもかかわりを持っていただいております。参加者の小学生から中学生の枠を大きく超えた異年齢交流が盛んに行われている。

また、教室参加者にとって牧場は安心できる居場所のひとつとなっており、学校に行きづらい子供の受け皿として、教室の無い日の牧場作業の手伝いも継続して受け入れている。

実施回数:土曜日クラス24回 日曜日クラス24回 のべ参加者:1,200名

月謝制:取手市内¥5,000/月・取手市外¥6,000/月

行事:教室の他、夏季合宿@蓼科・夏季合宿@新潟(ライダーズカップに積極的な参加希望がない参加者に配慮した合宿という位置づけとした)、ライダーズ直前合宿、ライダーズカップ、Eポート大会、クリスマス会、卒業を祝う会を実施。新たに保護者会を開き、法人理念を伝え保護者の皆様のちょっとしたお悩みを共有しつつ風通しの良い運営に努めた。



### C. 移動乗馬教室

移動乗馬教室のポニーと馬運車の提供拠点として活動した。これまで実施してきたララガーデン川口・亘理いちごっこ・JRA東北・水の郷さわら等にプログラムに加え、新たに、世田谷区医療的ケア児等支援事業・渋谷区笑顔プロジェクト・河内ドリームフェスティバル等にも派遣した。また、常総環境センター・牛久Waiワイまつり(牛久市獣医師会)といった、コロナ禍によって中断していた団体からの依頼も再開し、出動回数は前年度を大きく上回った。

### D. 功労馬の譲渡

30歳を迎えて引退した功労馬のコナンを三重県四日市にお住まいの会員に譲渡した。土地、厩舎を建てられる工務店などあてのない中でも、「自宅でポニーを飼う」「飼い方を工夫すれば、ポニーはもっと貢献できるはずだ」と熱意をもって準備にあたられ、2月に実現に漕ぎつけた。

譲渡のタイミングで保育園や地域のお祭り、子ども食堂に通う子供達などを対象に引馬プログラムと福祉施設の利用者を対象にふれあい体験会を実施。地元紙で取り上げられるなど、注目を集めており、ポニーは第二のキャリアを順調に歩んでいる。



### 1.5. 相馬ポニー牧場

定期的な維持管理を行いながら利活用の検討を進めたが、未利用の状態が続いている。キャンプを停止してから13年となり、今後も事業再開が見込めないため、正式な閉場に向けてプロジェクトチームを組織することを決めた。

## 2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理

### 2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)

新型コロナウイルス感染症による制限はさらに減じ、コロナ禍以降最大の約10万人が来園し、活気が戻ってきた。特に小動物とのふれあいは近隣施設の団体利用も回復し、利用者数が大きく伸びた。また、動物クラブの人数・時間制限を撤廃、ポニー教室(個人)の発表会を復活するなど、コロナ禍前の運営に戻った部分も多い。

相模原と合同で行った現役生・卒業生を対象としたポニーキャンプは大きな好評を得た。子供同士の横のつながりもでき、次回を待ち望む声が多くあがった。

外部とのつながりでは、世田谷区立桜町小学校にウサギを譲渡し、健康チェックを行ったり、授業を担当するために学校を訪問した。今後もつながりを持つとともに、区内の学校等とも関係性を構築していきたい。

秋には次期指定管理者の選定が行われ、次の5年間も運営を担えることとなった。次の年度は、医療的ケア児を対象としたポニーとのふれあいプログラムを行ったり、5年ぶりのポニーまつりを開催するなどし、広くたくさんの人に愛される動物広場としたい。



所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(6頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬)・小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 動物クラブ 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(エサあげ体験、クイズラリーなど) 碑文谷ポニーキャンプ(現役生向け・卒業生向け)

### 2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)

5月の連休明けから、個人教室の運営体制がコロナ禍以前に戻り、全学年が同時に教室に参加出来るようになった。夏は暑い日が続き、乗馬する機会が減少したものの、体操など出来ることを行い、利用者数は増加した。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていた「水元公園こどもまつり」は、3年振りに開催される予定だったが、当日は雨天中止となってしまった。また、「かつしかスポーツフェスティバル」「区民感謝



乗馬デー」は実施されたものの、天候に恵まれずイベントでの利用者数は伸びなかった。

65歳以上を対象にした「介護予防乗馬」は、今年度から4期開催となった。毎回好評を得ており、各回とも定員一杯で実施出来た。

所管課	葛飾区教育委員会事務局地域教育課
面積	3,263 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(13頭)
主な事業	<p>ポニー乗馬(引馬)</p> <p>ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学校1年生から中学校3年生 団体:区外を含む中学生以下の団体</p> <p>障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止)</p> <p>イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等</p> <p>移動乗馬教室 「葛飾区こどもまつり」(中止)「かつしかスポーツフェスティバル」</p> <p>介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回)</p> <p>葛飾ポニーキャンプ</p>

### 2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)

新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に減じ、入場者、ふれあいコーナーの利用、えさやり体験、大人向けの「健康づくり乗馬」、ポニーボランティアなどは好調に推移し、徐々に回復してきたことを感じる。しかし、ポニー乗馬場(引き馬)の利用者数は、天候の影響もあり前年度をわずかに下回るなど、まだまだ十分とは言えない状況がある。

子どもたちの活動では、ポニーライダーズカップや対馬キャンプなど、団体の自主事業への参加を促すなど、新たな動きも積極的に進め、好評を得た。

2月には、えさやり体験など一部のプログラムの値上げを行ったが、利用者数に大きな変動はなく、理解を得られたと感じている。今後も、利用料金に値上げを負担と感じさせないような、満足度の高い運営を継続してゆきたい。

秋には次期指定管理者の選定が行われ、無事、次の5年間も運営を担えることとなった。ただ、選定の過程では、選定委員からよい実践を表現し、広く知ってもらうための努力が十分でないとの指摘を受けた。次の指定管理期間においては、指定管理者制度のメリットを生かしつつ、ハーモニセンターらしい活動を広く行い、そのよさをもっと詳しく、分かりやすく、楽しく、積極的に伝えていきたい。



所管課	相模原市環境経済局公園課
面積	15,000 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(15頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・マーモセット・ミニアキャット シマリス・ハイラックス・シカ・プレーリードック・ウサギ・鳥類(クジャク・チャボ・オンドリ等)
主な事業	ふれあいコーナー・展示コーナー・ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(市内施設及び団体対象) 動物フェスティバル(年2回)等各種イベント さがみはらっこポニーキャンプ・ポニーボランティア合宿

#### 2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の4年目)

この年度も、工夫を凝らして、新しい取り組みを行うとともに、来園者の安全性、利便性の向上に努めた。

動物関係では、ヤギの橋渡しを行い、多くの来園者から喜びの声をいただいた。地域連携では、警察や消防署、近隣の大学や福祉施設との共同プログラムを行ったほか、東板橋図書館による読み聞かせイベント、就労支援サポート、不登校児の受け入れ事業を定期的に行った。利用者に好評のキッチンカーの新規開拓にも力を入れ、来年度から業者を増やせるよう準備を行った。土日祝日にはガーデンテーブルとイスを公園に増設し、利用者の利便性に配慮した。

また、需要の多い自主事業のイベント数を増やした。久しぶりの再開となるひつじの毛刈りは、本園では1日2回行い、多くの来園者に楽しんでもらった。年に1度の動物園のお祭りは「ZOOパークフェスタ」と名前を変え、公園全体を使って規模を拡大し、地域の産官学民と共同で行うイベントとして実施した。

SNSを活用した情報発信では、新しくX(旧Twitter)を開設した。Xやブログでは区役所担当課との連動し、情報の共有化を図った。またGoogleマップのオーナー権限を取得し、より多くの発信を行った。

分園では要望の多かったおむつ替えや授乳のスペースを確保し、来園者の多い土日祝日に利用できるようにした。

次の年度は、指定管理の最終年度を迎える。これまでの経験を生かし、引き続き運営を担えるよう努めたい。



所管課	板橋区土木部みどり公園課
面積	本園 1,907 m <sup>2</sup> 高島平分園 583 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい・ヤギの屋根のぼり、橋渡り・モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬・ポニーの馬車 こども動物クラブ・ポニー教室、親子ポニー教室・出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・公園祭り・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画・公園清掃、樹木管理

## 2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

ポニー乗馬、ふれあいコーナーともに高い需要があるものの、この年度は6月～10月に気温が高く、中止を余儀なくされる日が多くあり、利用者は伸びなかった。しかし、気温が下がり始めると、連日のように広場を訪れ、ポニーに何度も乗ってくれる子どもも多く見られた。

ふれあいコーナーは、コロナ禍以降、土日祝日等の繁忙時に整理券配布による利用者数の制限を続けている。そのため、利用者数だけを見るとコロナ禍前より少なくなっているが、保護者はもちろん、大人のみでの利用も増えており、幅広い年代に人気を得ている。

動物愛護クラブは非常に人気が高く、申し込み初日には開園前から待つ家庭もあり、すぐに定員に達した。動物愛護クラブは、子供達にとって単に動物とふれあう機会というだけにとどまらず、命の大切さを学んだり、接客のお手伝いや、違う学年の参加者が同じ作業をすることを通じて異年齢交流ができたといったよさがある。参加者は、土日祝日や授業が早く終わった時など、熱心に通ってくれた。



所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・ウコッケイ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬)・小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間)・動物クラブ・各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ・中学生職業体験の受け入れ

### 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

#### 3.1. 「馬という領域」ミーティング

11月11日・12日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「馬という領域ミーティング 2023」(主催：馬という領域ネットワーク)を開催。ネットワークのメンバーとして、運営に携わった。運営スタッフ・ボランティアを含む100名以上が集い、盛会となった。運営にはハーモニーセンター、ハーモニカレッジのカウンセラーも多数参加した。今後も継続的に運営に携わり、馬という領域の活性化を図りたい。

#### 3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会より助成金を得て、神奈川県相模原市・福島県南相馬市・東京都多摩地区・長野県茅野市の35施設を訪問。あわせて「人と馬のふれあいによるストレス軽減」調査研究のため5か所の施設を訪問し、乗馬体験を提供した。

蓼科ポニー牧場では「牧場フェスティバル」を11月11日・12日に実施、相模原市では7月2日に「ポニー乗馬×移動式あそび場 in 若葉台」を実施した。

相模原市：5月22日～11月16日 児童養護施設や支援学校など11か所を訪問

多摩地区：10月27日～11月22日 小学校や商店街など9か所を訪問

南相馬市：9月26日～10月1日 小学校を中心に11か所を訪問

茅野市：11月7日～12日 不登校児対象事業含めて8か所を訪問

調査研究：9月7日～12月20日 福祉施設・特別支援学校を中心に5か所を訪問

#### 3.3. クラウドファンディングによる地域の方々への移動動物教室の提供

前年度、クラウドファンディングサイト「READYFOR」で、法人として2度目のクラウドファンディング『動物とのふれあい体験で、子どもたちや地域の方に笑顔を届けたい！』を実施。221名から、計3,427,300円の支援を得ることができた。その費用を活用し、2月～10月に、児童養護施設や障害者施設・特別支援学校・地域のイベント等計12か所を訪問し、多くの方々に動物との触れ合いを楽しんでいただいた。

#### 3.4. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供

大学や専門学校、公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会等の求めに応じて、移動乗馬教室や障害のある子供を対象としたポニー教室の運営など、馬が介在する活動の運営ノウハウを伝える講習・授業を提供した。また、各事業所において、専門学校等の実習の受け入れを行った。

また、11月25日に、公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会「馬の多様な利活用を推進する講習会開催等事業」として、「馬の力を借りての心の支援を」シンポジウムを開催し、行政関係者、乗馬クラブ経営者、教育・福祉支援団体関係者など30名の参加があった。当団体からは蓼科ポニー牧場で実施している不登校児支援プログラムについて発表するとともに、碑文谷公園こども動物広場におけるポニー教室を見学してもらい、さまざまな領域の活動実践者同士の交流の場を提供した。

## 4. 川べり環境の整備及び活用の推進

### 4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム

例年好評を博しているカヤック教室を3回企画したが、前日の大雨の影響を受けて中止した回もあり、参加者は25名に留まった。それでも、酷暑のためか、カヤックやEボート、水遊びについて通年問い合わせを受け、関心の高さが伺えた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたEボート大会を(NPO)小貝川プロジェクト21と共同で再開。これまで小貝川ポニー牧場からの参加者は20名前後で推移してきたが、今回は49名が参加し、大いに盛り上がった。

田園調布の子供を対象としたワンデイキャンプ、夏季のポニー教室、茨城LD等発達障害親の会\_星の子の事業などでも、川遊びを実施。プログラムの一環として「河川とプールの違い」「堤防の重要性」など、水辺の安全に関するレクチャーを行った。

活動場所の保全と河川敷整備を目的に、ゴミ拾い、草刈り、ポピーの種蒔き等を随時実施した。特に河川が増水した後は、放牧場やその近辺の活動場所に堆積したゴミや木くず等の撤去をポニー教室の参加者や保護者の手を借りて行った。作業を通じて、子供達には川の力とゴミ問題について楽しみながら学び、保護者の皆さんとの交流を深めることができた。

### 4.2. 河川騎馬パトロール

茨城県河内町での河川騎馬パトロールを7月と12月の2回実施。ポニーの手綱操作とバランス練習の後に、外乗をし、河川パトロールを行った。

ポニー教室や乗馬レッスンでも小貝川の河川敷を乗馬しながら散策しており、参加者といっしょに川の水量、ゴミ等の漂着物を確認し、日常と比較することで安全確認を行っている。



## 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

### 5.1. モンゴル大草原乗馬交流

新型コロナウイルス感染症の影響で休止していたモンゴル事業を風の旅行社と連携し、「大草原騎馬トレッキングと遊牧民生活体験6日間」として再開した。今年度はポニースクールかつしかの子供達と小貝川ポニー牧場のポニークラブの子供達を主な対象とし、16名が参加した。ほかにも参加したいという声が多くあり、2024年度は2コースを増やして継続実施の予定となっている。



### 5.2. 日独青少年相互交流計画

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり、直接交流活動は休止が続いた。しかし、活動再開に向けて、4月に鳴子国際交流協会の方々とドイツを訪問し、ドイツ側カウンターパートとして長年にわたって事業を牽引してくださったルドガー・フォンテック氏と面談するとともに、事業を引き継ぐ青少年団体・メディアコーポラティブとも意見交換を行った。2024年度には直接交流事業を再開し、ドイツ青年が来日予定である。

オンラインでは12月9日に鳴子国際交流協会と共催で、ドイツ国際平和村の日本人スタッフのお話会を実施し、18名が参加した。(参加費は全てドイツ国際平和村に寄付)

*ルドガー・フォンテック氏は、2023年11月に逝去されました。本事業への長年の貢献に感謝するとともに、哀悼の意を表します。*

## 6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

### 6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として各号2,500部を発行した。

「アクティブラーニング(能動的学習)」の一助になればと考え、「東京『ウマ歴史』探訪」と題して、都内に点在する人と馬の関わりを示す史跡や学習施設などを紹介する連載を行った。また、新しいキャンプの情報や、外部団体との連携事業など、コロナ禍を経て生まれた新しい動きも積極的に取り上げ、幅広い情報発信を行った。

### 6.2. WEB広報

ホームページ(<https://harmonycenter.or.jp/>)とSNS(Facebook・Instagram)を利用した情報提供を行った。基本情報の提供だけでなく、キャンプやイベントの告知も積極的に行った。

Instagramについては各動物広場での運用も始まり、動物広場の存在をより身近に感じていただける広報への取り組みも進んでいる。引き続き、より多くの人にハーモニーセンターを知ってもらうため、イベント等の告知にとどまらず、より興味を持ってもらえるようなコンテンツ提供を模索していく。

## 7. その他

### 7.1. 中期計画の策定

新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が見通せる状況となったことから、今後の指針となる「公益財団法人ハーモニセンター中期計画2024－2028“Riding for All をさらに拡げる”」を策定した。2024年度以降、この内容を事業計画に反映させ、実行することで、Riding for All の実現を目指します。

### 7.2. 規程変更と新設

法改正、事業運営の実態に合わせて就業規則、非常勤職員就業規則、賃金規程、育児・介護休業規程、退職金規程、慶弔規定、福利厚生規程、処務規程を変更、コンプライアンス規程を新設した。

### 7.3. 馬の管理

法人所有馬80頭のほか、板橋区が所有する8頭を管理受託。昨年同様、引退競走馬支援団体(TCC)より1頭、個人所有馬1頭を預託し、計90頭の馬を管理した。

高齢馬2頭が引退、2頭が病死。また、多様な馬の利活用が広がる中、卒業生やカウンセラーOBOGがホースセラピーに従事し、協働や馬の支援を求められることもあり、鹿児島島の施設へ若馬を譲渡した。

馬の世代交代も意識しつつ、2人乗り対応やセラピーとしての使用用途に対応可能なハープリンガー種2頭を含む4頭を購入し、調教を進める準備をした。

### 7.4. カウンセラー・職員等の研修

#### A. カウンセラー募集と研修

ボランティア募集サイトやホームページからの問合せを中心に、現役カウンセラーからの紹介や大学への募集チラシ、学校での説明会などを通じて登録申込があった。前年度と比較して新規登録者数は25名程度減ったが、実習のためカウンセラー登録をした学生が56名から28名になったためであり、カウンセラー活動を希望する学生数は減っていない。長期休みキャンプに参加したカウンセラーはのべ150名と、前年度の146名から増えており、新型コロナウイルス感染症の影響をもっとも受けた2020年度と比較すると、50名程度増えている。

活動はミーティングにオンラインを有効活用しながらも、ほぼ全てが対面となった。それによりキャンプや研修会など積極的に活動に参加するカウンセラーも増えてきており、経験や技術の蓄積が進み、カウンセラー同士の関係性も深まっている。

また、カウンセラー活動をより後押しするために、継続支援制度(マンスリーサポーター)をスタートした。支援金はカウンセラー自身が用途を決め、カウンセラーの主体的な活動がより活発になるきっかけとしていきたい。



## 登録カウンセラー数

継続登録者数	新規登録者数	合計
70名	95名	165名

## B. 職員研修

研修委員会を中心に内容を検討し、以下の通り職員対象の研修を行った。

日程	内容	対象者
5月15日	団体理念と歴史、馬の取り扱い、接遇マナー	1・2年目職員
11月14日	後輩育成、職場間コミュニケーション、キャリアアップ	20代後半職員
12月4日	団体理念と歴史、馬の取り扱い	1・2年目職員
2月5日	リスクマネジメント、個人情報、馬の馴化と馴致	3・4年目職員
1月22日	団体理念と歴史、今後の役割、役職者になるために	30代職員
1月24日～29日	乗馬研修	
2月13日	指導理念、課題とビジョンの共有	30代役職職員
2月26日	令和時代のリーダーシップ	40代以上職員

※このほかにも、担当事業に関連する外部研修に職員を積極的に派遣した。

## 7.5. 会議等

### 1. 理事会・評議員会等

第1回理事会 5月28日

第1号議案 2022年度事業報告及び決算承認の件

第2号議案 定時評議員会開催の件

第3号議案 役員改選の件

第4号議案 新拠点候補選定の件

定時評議員会 6月13日

第1号議案 2022年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2号議案 役員改選の件

第2回理事会 6月13日

第1号議案 代表理事選定の件

第3回理事会(書面) 7月27日

第1号議案 規程類改訂の件

第2号議案 コンプライアンス規定新設の件

第4回理事会(書面) 10月31日

第1号議案 相馬ポニー牧場閉場にかかるプロジェクトチーム設置の件

第5回理事会 12月13日

第1号議案 中期計画承認の件

第2号議案 退職金規程改訂の件

第3号議案 相馬ポニー牧場隣接林道の送電線埋設にかかる隣接地権者としての同意の件

第6回理事会 3月19日

第1号議案 2024年度事業計画書、予算書、新調達及び設備投資見込み承認の件

第2号議案 ぽこあぼっことの協力協定締結の件

第3号議案 三田理事への業務委託の件

第4号議案 規則改定の件

第5号議案 特定費用準備資金積立の件

第6号議案 期末賞与支給の件

第7号議案 重要な使用人の選任の件

## 2. その他

新年互礼会 1月15日

入職式 4月1日

運営会議 5月1日・5月9日・5月17日・5月29日・6月19日・6月22日・7月13日・8月29日  
10月31日・12月12日・12月13日・1月16日・2月14日・3月27日

施設長会議 5月17日・6月19日・7月13日・9月14日・10月31日・12月12日・1月16日  
2月14日・3月11日

## 7.6. 法人事務

円滑に法人運営が行えるよう、以下の事務を行った。この年度は、労務管理ソフトウェアを導入するなど、職員の業務負担の軽減を図った。

- (1) 事業執行管理
- (2) 経営管理
- (3) 人事労務管理
- (4) 会員管理
- (5) 寄付金・助成金事務
- (6) 渉外事務
- (7) 庶務

## 7.7. 賛助会員

賛助会員A 607世帯

賛助会員B 81名

賛助会員C 30名



公益財団法人ハーモニセンターは、非営利組織の信頼の証である  
「グッドガバナンス認証」(公益財団法人日本非営利組織評価センター)を取得しています。